

新潟県
取組成果発表資料

1 事業背景（本県高等学校教育の現状と課題）

15年後には中卒者数が18,000人台から11,000人台へ
⇒高校の小規模化に対し、教育の質をどう保持するか



【中学校卒業生数】

	H13春	R 5春	増減
新潟県	29,155	18,856	▲35.3%
佐渡市	780	409	▲47.6%
阿賀町	161	59	▲63.4%

【県立高校等募集学級数（全・定）別の学校数】

	H22春	R 5春
3学級以下	26 (28.0%)	43 (49.4%)
4学級以上	67 (72.0%)	44 (50.6%)

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

「教科・科目充実型」遠隔授業の拡大

- R5は延べ16科目で通年配信、単位認定
- 国事業の特例により、受信側の補助体制も研究

受信校・実施教科(科目)	特記事項
阿賀黎明高校 4科目 地歴歴史(地理B)、理科(化学基礎) <u>理科(地学基礎)</u> 、芸術(書道I)	<ul style="list-style-type: none">・「化学基礎」は羽茂高校と合同授業・事務職員が受信側補助（特例）
羽茂高校 3教科 国語(古典B)、地理歴史(セミナー日本史) 理科(化学基礎)、 <u>理科(地学基礎)</u>	<ul style="list-style-type: none">・「化学基礎」は阿賀黎明高校と合同授業・実習助手が受信側補助（特例）
佐渡高校相川分校 1科目 芸術(書道I)	
佐渡総合高校 3教科 公民(政治・経済)、 <u>理科(地学基礎)</u> 福祉(社会福祉基礎)	
佐渡中等教育学校 4教科 数学(数学B)、 <u>理科(地学基礎)</u> 外国語(論理・表現II)、情報(情報I)	

※理科(地学基礎)のみ
佐渡高校が配信拠点

延べ12科目配信

遠隔授業配信センター(新潟翠江)

阿賀黎明

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

【R5新規科目の取組状況】

「書道Ⅰ」（2校）

新潟翠江⇔阿賀黎明



新潟翠江⇔相川分校



- 書画カメラ、iPadカメラ等、複数のカメラを用いて様々な角度から筆運びを配信
- 受信側補助員がiPadで机間指導
→個別の指導や声掛けを実現
篆刻指導は書画カメラよりも有効
- タブレット端末の活用方法に課題
…小筆のような細かい線に有効か

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

【R5新規科目の取組状況】

「社会福祉基礎」

- ・ 専門教員の少ない「福祉」や「情報」において、離島に専門教員を配置しなくても、遠隔授業で専門性の高い授業を実施
- ・ 「福祉」においては、VRの活用を計画

○遠隔授業の初回から課題解決型学習

「私の目の前の“壁”を皆さんの力でとり除いてください」

⇒佐渡総合高校生の対応は・・・

○外部講師との連携

- ・ 新潟医療福祉カレッジ専任教員
- ・ 盲導犬ハーネスの会会長
- ・ 佐渡市へ移住した古着専門店店主（車いす生活）
- ・ 新潟市西区社会福祉協議会出前授業
- ・ 新潟市手話通訳者養成講座講師
- ・ **介護関連会社ツクイ職員（VRによる認知症体験）**



＜配信教員の様子＞

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

テーマ1 タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業

活用の手法が概ね3パターンに大別され、定着化

- ①Google Classroomやロイロノートで課題の送受信
- ②授業プリント等を画面共有で提示
- ③Googleジャムボード等で同時共同編集

【課題】配信教員が既定路線を敷く「単線型授業」が大勢
使用するツールも教員が指定、仕掛けられた協働的学び

→学びの複線化（個別最適）、受信側に委ねる（協働）
に向けた配信教員のマインドセットが必要

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

テーマ2 複数校同時配信の遠隔授業

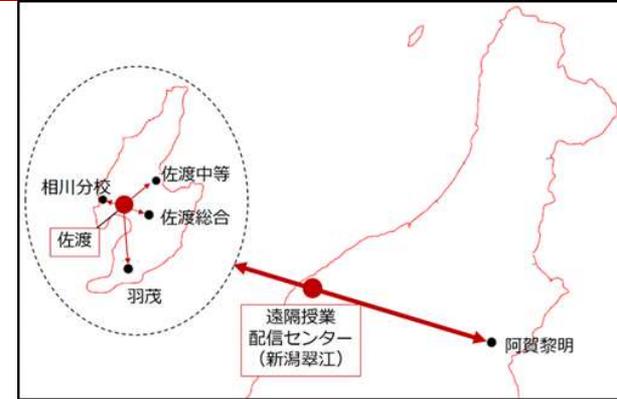
(1) 環境準備

①校時表の共通化

（50分授業、1限～6限まで）

※定期考査の有無、学校行事等までは調整していない

②受信校教室同士の映像接続（テレビ会議システム）



<羽茂高校の様子>



<阿賀黎明高校の様子>

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

テーマ3 ネットワーク構成校での教育課程の共通化

「地学基礎」をネットワーク校の共通科目に

- 自然環境豊かな佐渡市、阿賀町のネットワーク校における共通科目として位置付ける
- 地学の専門教員配置校（佐渡高校）からの配信



＜佐渡高校の配信室の様子＞



＜阿賀黎明高校での対面授業の様子＞

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

テーマ4 遠隔授業における実験・実習のあり方



阿賀黎明高校側では・・・
「実験中に生徒がビーカーの
中で温度計を割ってしまい、
エタノールが漏れ出してしま
った。教頭先生がいてくだ
さったので大変助かった。
（受信補助の事務職員の
レポートより）」

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

受信体制のあり方の検証

	当該教科の教員	当該教科以外の教員	実習助手	事務職員
機器準備・資料配付等	○	○	○	○
授業中の生徒への指導	○	○	○	△
実験や実習を伴う指導	○	△	△	△→×
複数校同時配信の補助 （地歴公民や理科を想定）	配信教員の見取りが複数教室に分散することから、各受信校では適切な生徒対応ができる職員配置が一層必要			

○「受信側の体制に教員配置が必須」の規制の根拠

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行等について（通知）（H27.4.24）
 - ・ 受信側の教室に当該高等学校等の教員を配置
 - ・ 当該教科の免許保有者であるか否かは問わない

○同時に授業を受ける生徒数が40人以下に制限の根拠

- 公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（法律）
 - ・ 第6条 公立の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下この条において同じ。）の全日制の課程又は定時制の課程における一学級の生徒の数は、**40人を標準**とする。ただし、やむを得ない事情がある場合及び高等学校を設置する都道府県又は市町村の教育委員会が当該都道府県又は市町村における生徒の実態を考慮して特に必要があると認める場合については、この限りでない。
- 高等学校設置基準（文部科学省令）
 - ・ 第7条 同時に授業を受ける一学級の生徒数は、**40人以下**とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行等について（通知）（H27.4.24）
 - ・ 受信側の教室等のそれぞれの生徒数が40人以下であっても、それらを**合わせて40人を超える**ことは原則として認められない。

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）



成果 小規模校の教科・科目の充実と遠隔授業におけるノウハウ蓄積

「プロジェクトの成果は、離島・中山間地域に限らず、全県的な教育環境の充実に生かすべき」
 （本県運営指導委員会の指導・助言より）

①科目の新設



「地学基礎」
 対面授業では実験を充実



「書道Ⅰ」
 受信側職員も支援ノウハウ蓄積

②専門的指導



「社会福祉基礎」
 外部人材との連携やVRの活用

③習熟度別指導



「数学B」
 タブレット・クラウドの活用で個別添削



一方向の指導（知識伝達）よりも 双方向の学びが充実した授業改善



タブレットで
 実験を合同校
 に配信

- 「コミュニケーション」の充実した遠隔授業は生徒の授業に対する満足度も理解度も高い傾向
- コミュニケーションの阻害要因である「通信環境の不安定さ」は多くの生徒にとってストレス



今後の授業配信の拡大における 学校間配信のみでの限界

- 配信教員を兼務している新潟翠江高校通信制教員は平日3日間に配信が限定（スクーリングの都合上）
- 学校間配信では時程や学校行事の調整に課題

遠隔授業生徒アンケート結果（R5.7月）

質問項目	肯定的回答の割合	
通常の授業と同じくらい(又はそれ以上に)、意欲的に授業に参加できたか	R4(2月)	94.8%
	R5(7月)	88.3%
通常の授業と同じくらい(又はそれ以上に)、授業内容を理解できたか	R4(2月)	80.3%
	R5(7月)	70.5%

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

R3

① 生徒間交流キックオフ →ロゴマーク作成へ



② 探究学習の交流開始

- 地域探究コース設置校2校による対面での交流授業（10月）

対面で初交流授業 地域の自慢紹介

阿賀野明高と佐渡・羽茂高

2021/10/20 13:00

新潟県阿賀町の阿賀野明高校と同佐渡市の羽茂高校の2年生による初の交流授業が阿賀野明高で行われた。生徒は地元の魅力や課題などを知る地域探究コースでの取り組みを紹介し合った。



阿賀野明高と羽茂高の2年生が地域探究での取り組みを紹介し合った交流授業＝阿賀野明高と津川の阿賀野明高

藤島・中山間地域の教育環境充実に向けて、県教育委員会が文科省の事業採択を受けて実施する「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」の一環。プロジェクトは両校と佐渡高、同高相川分校、佐渡総合高、佐渡中等教育学校（以上佐渡市）、新潟翠江高（新潟市）の7校がネットワークを結んで遠隔授業を行うほか、自治体が進めるキャリア教育を通じ、地域での人材育成に取り組んでいる。

今回、羽茂高の生徒が修学旅行に合わせて阿賀野明高を訪れ、12日に対面形式で交流授業が行われた。

新潟日報ホームページより

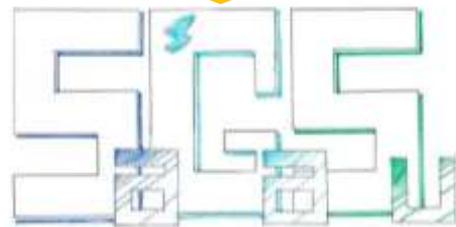
<https://www.niigata-nippo.co.jp/news/local/20211020648459.html>

- ネットワーク校3校によるオンラインでの合同探究学習発表会（3月）

表題	
羽茂高校	空き家を生かす in Sado
	スマホでVR観光～家にいても旅行がしたい！～
	食ってみんかつちや ふるさとの味～郷土料理を広めたい～
阿賀野明高校	「まちづくり班」～空き家のリノベーションと、高校生の居場所をつくる～
	「環境」～林業の現状と体験～
	「医療×観光」～観光しながら健康体を手に入れる企画の立案・実施
佐渡総合高校	プロジェクトL～佐渡のレモンを世界へ～
	あんぼ種 NEWレシピプロジェクト
	「SDGS 2 飢餓をゼロ」～私たちができること ザンビアへの食糧支援～



ロゴマークの応募24件に対し、ネットワーク校生徒の全員が投票



佐渡中等教育学校生徒のロゴ案
（最多得票）



最多得票案を原案に、ロゴ委員がデザイン化

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

R4
R5

① SaGaSu委員会

ネットワーク校6校の生徒会執行部や部活動（グローバルアクト探究部）などで構成

※R5は総勢58名でスタート

② SaGaSuゼミ

ネットワーク校6校の2年生（中等5年生）全員（約300名）が、30～40のグループに分かれて、探究学習の成果を発表



ゼミ班

民謡、鬼太鼓、狐の嫁入り等、地域の伝統芸能の記録保存に向けた活動



交流班

広島県の高校に加え、長崎県の離島高校ともオンラインで交流予定（対面交流を熱望）



発信班

ネットワーク校や地域の魅力、プロジェクトの活動などを、「note」を利用して発信。

※ 県教育委員会とnote株式会社が連携協定締結(R5.8月)



R4.11.3(木)「新潟日報」の掲載記事



R5.1.28(土)「新潟日報」の掲載記事



R5.10.31(火)佐渡中等教育学校の様子

今回の発表会やこれまでの探究学習を通じて、今後あなたが身につけたい力として当てはまるものを、3つ選んでください。(回答者数270名)

上位3項目	割合
物事に進んで取り組む力	51.5%
自分の意見を分かりやすく伝える力	40.4%
目的を設定して確実に実行する力	35.6%

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

【参考】SaGaSuゼミ ネットワーク校合同探究発表会におけるグループ編成例

チーム番号	ファシリテータ	学校名	探究活動	SDGs17
4		佐渡総合高等学校	進路探究	(2) 飢餓をゼロに
4		佐渡中等教育学校	佐渡の食	(2) 飢餓をゼロに
4	F	佐渡高等学校	食	(2) 飢餓をゼロに
4		阿賀黎明高等学校	ゲーム対戦会に絡めた地域のPR方法	(2) 飢餓をゼロに
4		羽茂高等学校	食べ物の無駄をなくす	(2) 飢餓をゼロに
4		佐渡高校相川分校		(2) 飢餓をゼロに
4		佐渡高等学校	プロテインの成分	(2) 飢餓をゼロに

合同探究学習発表会は「有意義だった」と回答をした生徒割合

85.9%

合同探究学習発表会
アンケート結果より
(令和5年10月実施)
※全回答者数216人



佐渡高校生徒が
ファシリテーターに

ネットワーク校6校の生徒が、
1つのグループに

SDGsの17の目標に
紐づけしてグループ編成

チーム番号	ファシリテータ	学校名	探究活動	SDGs17
21		佐渡高等学校	消防士関連	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡総合高等学校	進路探究	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡高等学校	人が惹き付けられるような映像について	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡中等教育学校	経済成長や雇用について	(8) 働きがいも 経済成長も
21	F	佐渡高等学校	経済	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡高等学校	天体の創成	(8) 働きがいも 経済成長も

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

「学校と地域との連携・協働した取組」の推進

佐渡教育 コンソーシアム

- ① 島内外の14団体で構成
- ② コーディネーターの配置
- ③ 島留学（県外生徒募集）開始、
島外の大学・研究機関と連携
した魅力あるプログラム提供



コンソーシアム間の情報共有・連携



【1自治体複数校支援モデル】

阿賀黎明高校 魅力化プロジェクト

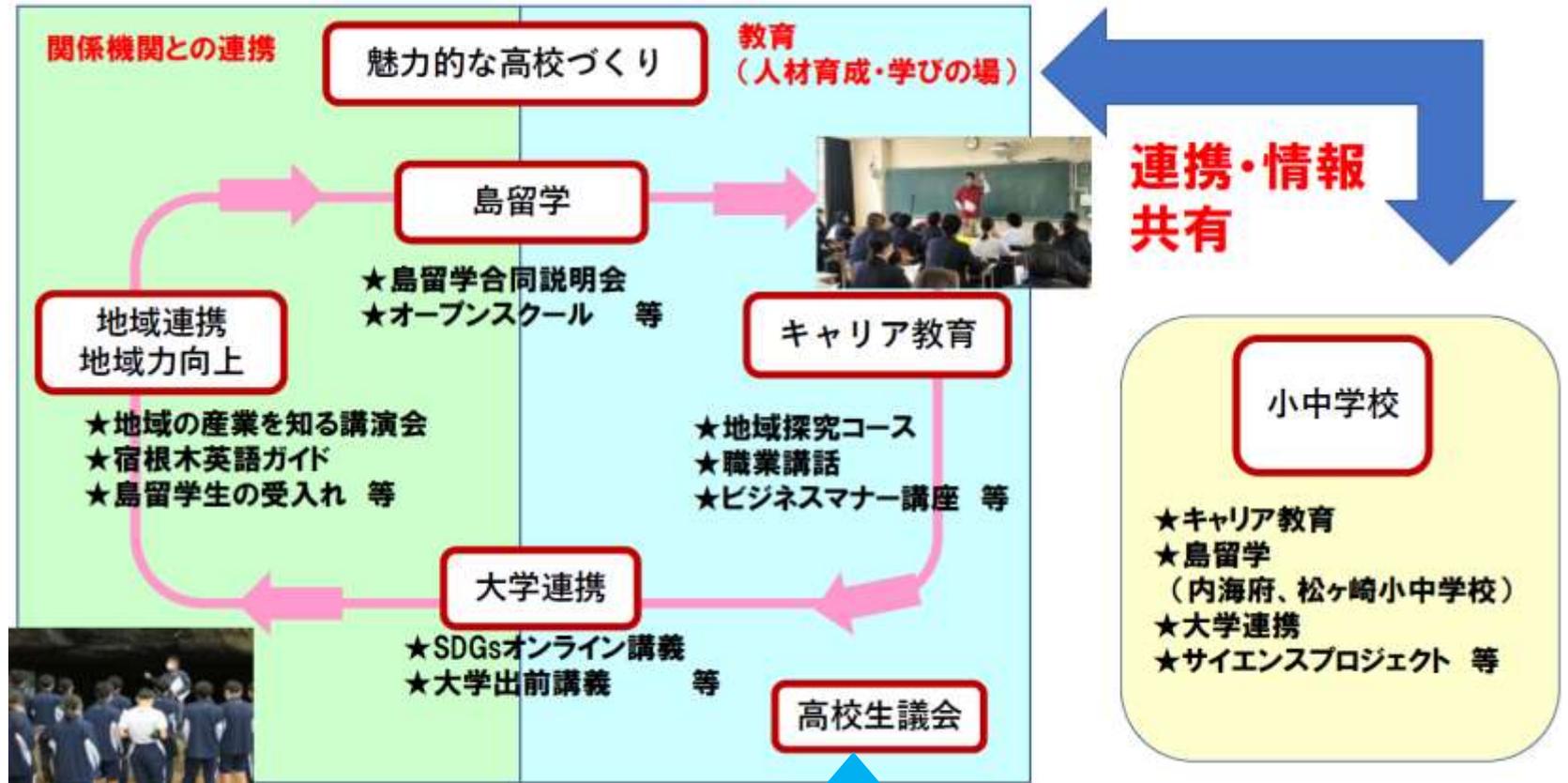
- ① 公営塾「黎明学舎」
…放課後の学習、探究活動支援
- ② 県外生徒募集→寮の設置・運営
- ③ 阿賀黎明探究パートナーズ
…地元企業・住民等により結成
→生徒の探究活動に伴走



【1自治体1校支援モデル】

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

（1）佐渡教育コンソーシアムの全体像

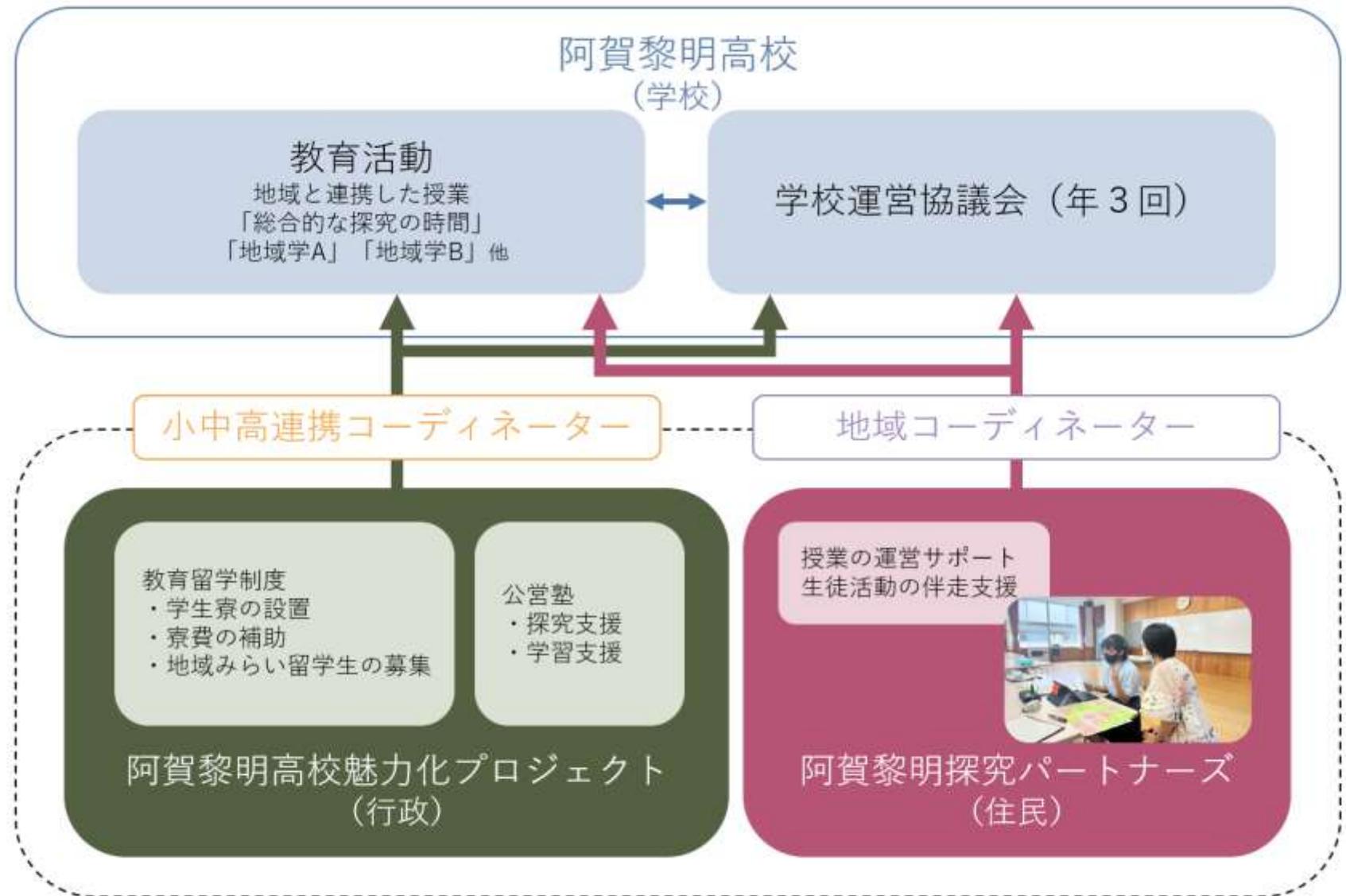


島留学の推進は羽茂高等学校をモデル校に



2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

（2）阿賀黎明高校魅力化プロジェクトの全体像



※会議：魅力化PJTワーキンググループ月1／高校進路指導部と公営塾スタッフで週1／パートナーズは年度始終と適宜開催

2 調査研究（遠隔授業・学校間連携・地域協働）

（3）阿賀黎明高校と阿賀町の具体的な取組例

スクール・ポリシーの策定協議



学校運営協議会委員
(中学校校長)

!	👤	📅	📊	📄	🗨️
🕒	🌞	🚶	🏠	👥	📱
🌍	🗑️	🕒	🕒	🕒	🕒

スクール・ポリシー策定ワークショップ	
名称: _____	
コーディネーター	
参加者	

3 シンポジウム開催 (遠隔授業・学校間連携・地域協働)

○テーマ (構想調書より)

遠隔授業、学校間連携、地域協働の新潟モデルの創出と、これからの持続可能な離島・中山間地域における人材育成

文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業 (COREハイスクール・ネットワーク構想)」

新潟の未来を SaGaSu プロジェクト 最終事業報告会 (シンポジウム)

令和5年11月14日(火) 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

次 第

【午前の部】		
開会挨拶	10時00分	
		佐野 哲郎 (新潟県教育委員会教育長)
趣旨説明	10時10分	
		市野 正廣 (新潟県教育庁高等学校教育課長)
基調講演	10時40分	
		①
[演 題]		これからの高等学校教育をどう描くか
[講 師]		荒瀬 克己 様 (独立行政法人教職員支援機構 理事長)
(休憩)	12時00分	
【午後の部】		
取組報告	13時00分	
(1) 遠隔授業の取組		②
(2) 生徒間交流の取組		
(3) 学校と地域との連携・協働体制の取組		
パネルディスカッション	14時15分	
会場参加者との意見交換	15時30分	
講 評	15時50分	
閉会挨拶	16時00分	
		長谷川 雅一 (新潟県教育委員会教育次長)



『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月中央教育審議会答申)においては、これからの高等学校教育の目指すべき姿として、社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を身に付けられるよう、初等中等教育段階最後の教育機関として、

- ・高等教育機関や実社会との接続機能を果たしていること
- ・生徒が自立した学習者として自己の将来のイメージを持ち、高い学習意欲を持って学びに向かっていること
- ・多様な生徒一人一人に応じた探究的な学びが実現されるとともに、STEAM 教育などの実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学びが提供されていること

などが掲げられ、スクール・ミッションの再定義やスクール・ポリシーの策定等が提言された。



〔パネリスト〕左から
 遠隔授業担当教員(書道 I)
 遠隔授業担当教員(化学基礎)
 学校間連携担当教員
 ネットワーク校生徒
 ネットワーク校生徒
 地域連携コーディネーター
 信州大学 東原名誉教授
 新潟大学 長尾准教授



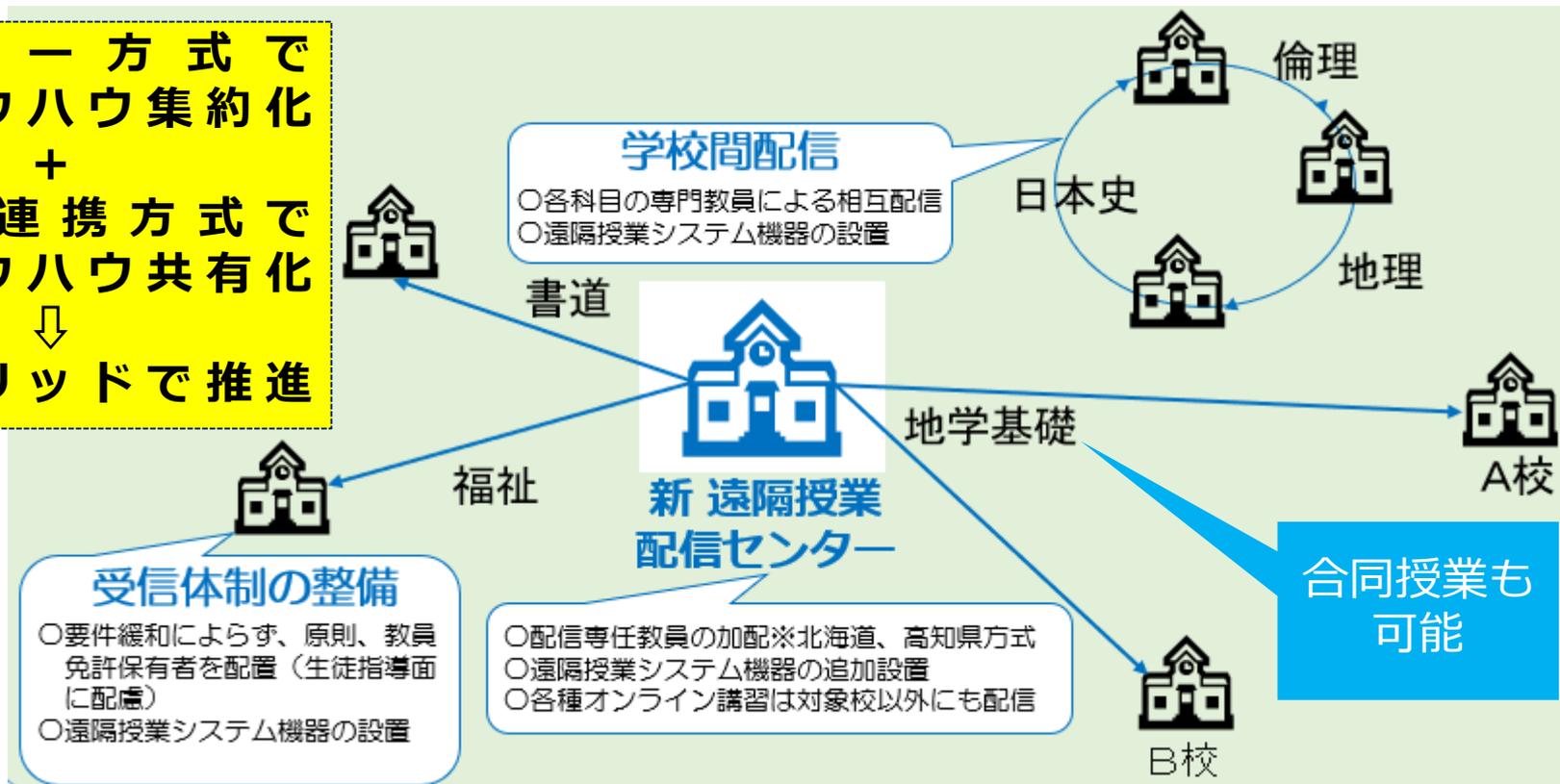
5 3年間の総括に向けて & 本県の高等学校教育の可能性

1 県土の広い本県には、遠隔授業は必要な教育環境

「高校の小規模化を踏まえた再編整備」という観点からすると

- 存続する小規模校には、遠隔授業を活用して教科・科目の充実を保証
- スケールメリットが得られる合同授業や、教員同士で専門性を補完しあえる合同授業などを、魅力的な教育環境が実現できる可能性あり

センター方式で
配信ノウハウ集約化
+
学校間連携方式で
配信ノウハウ共有化
↓
ハイブリッドで推進

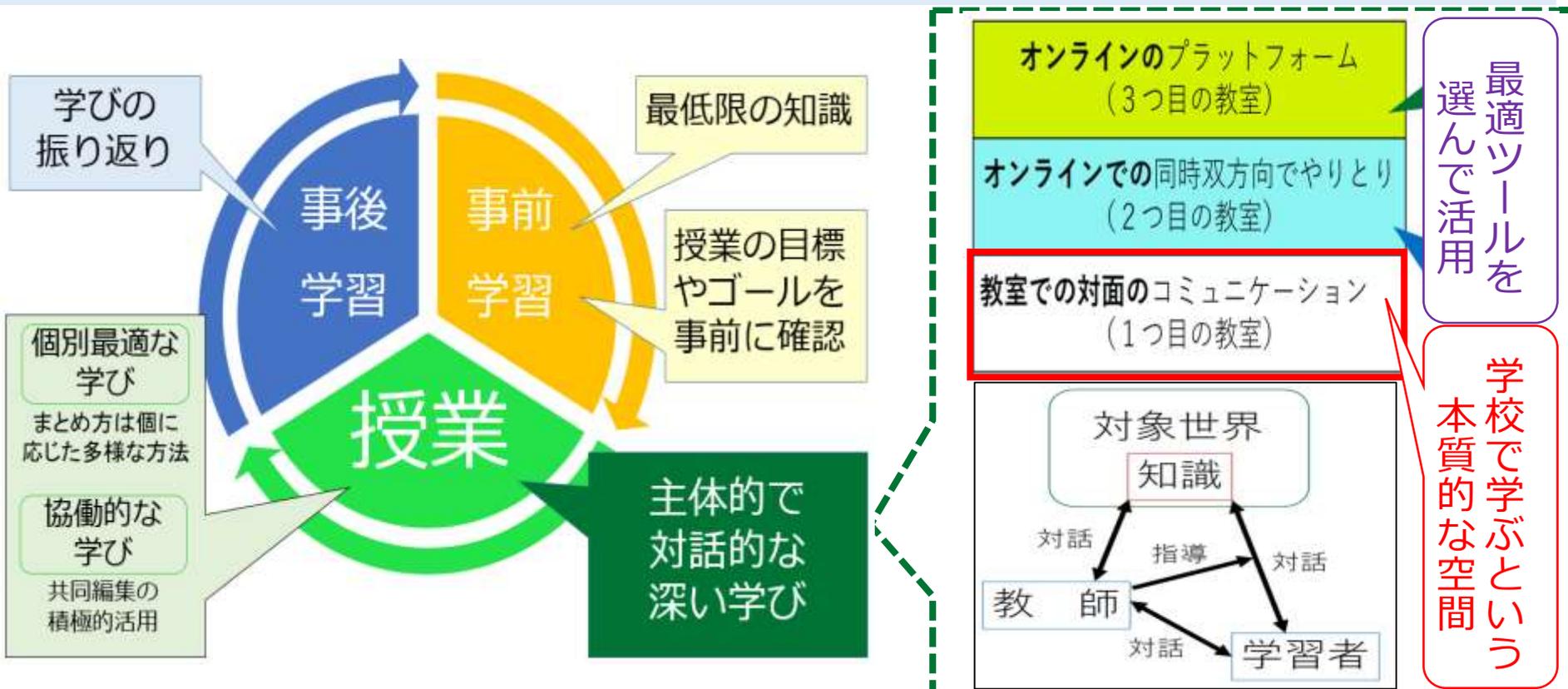


5 3年間の総括に向けて & 本県の高等学校教育の可能性

1 県土の広い本県には、遠隔授業は必要な教育環境

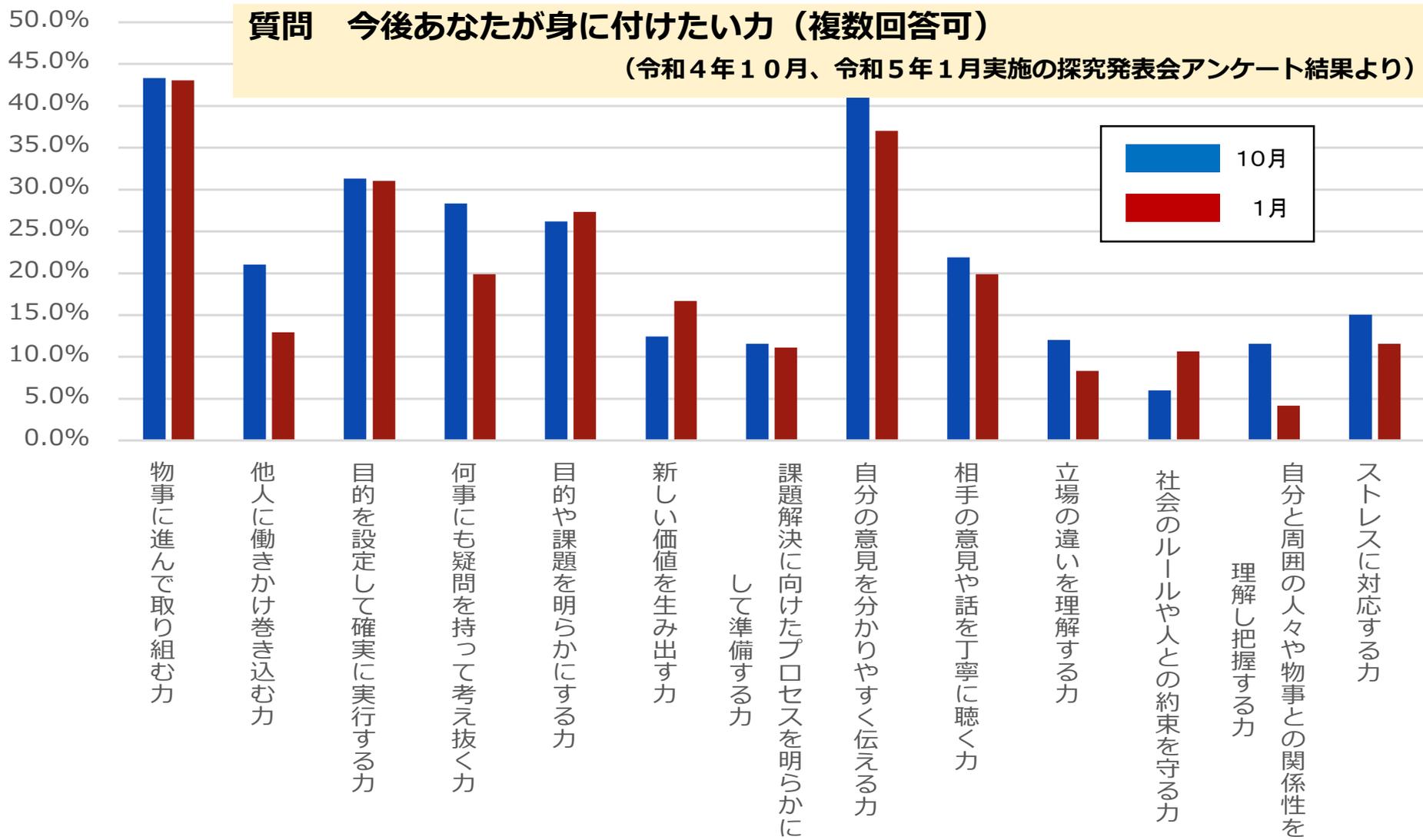
「遠隔授業の質」という観点からすると

- ICT活用した「多層的で教師と生徒が学びあえる教室空間」の実現へ
- 主体的・対話的で深い「学び」、個別最適な学び・協働的な「学び」
- 「遠隔授業だからこそ」の視点を持った授業改善



5 3年間の総括に向けて & 本県の高等学校教育の可能性

2 学校間連携は、生徒の社会性や幅広い視野で物事を考えようとする姿勢を育てる環境となり得る



5 3年間の総括に向けて & 本県の高等学校教育の可能性

3 地域資源（自然・文化・産業等）の豊富さ・魅力を再確認する探究的な学びを通じて、

- ① 学校や地域のブランディングに活かす
- ② 新たな地方創生人材を新潟から生み出す



東京大学未来ビジョン研究センター
および芝浦工業大学地域共創基盤
研究センターが佐渡研究室を開所

テープカットの様子(左から尾崎浩治 平島社長、佐渡市 渡辺市長、芝浦工業大学 栗原教授、東京大学 福土教授)

<https://ifi.u-tokyo.ac.jp/news/16112/>

魚沼地域では、外国人移住者でIT企業に勤務するスリランカ出身の方が、松代高校と連携して「プログラミング講座」を実施

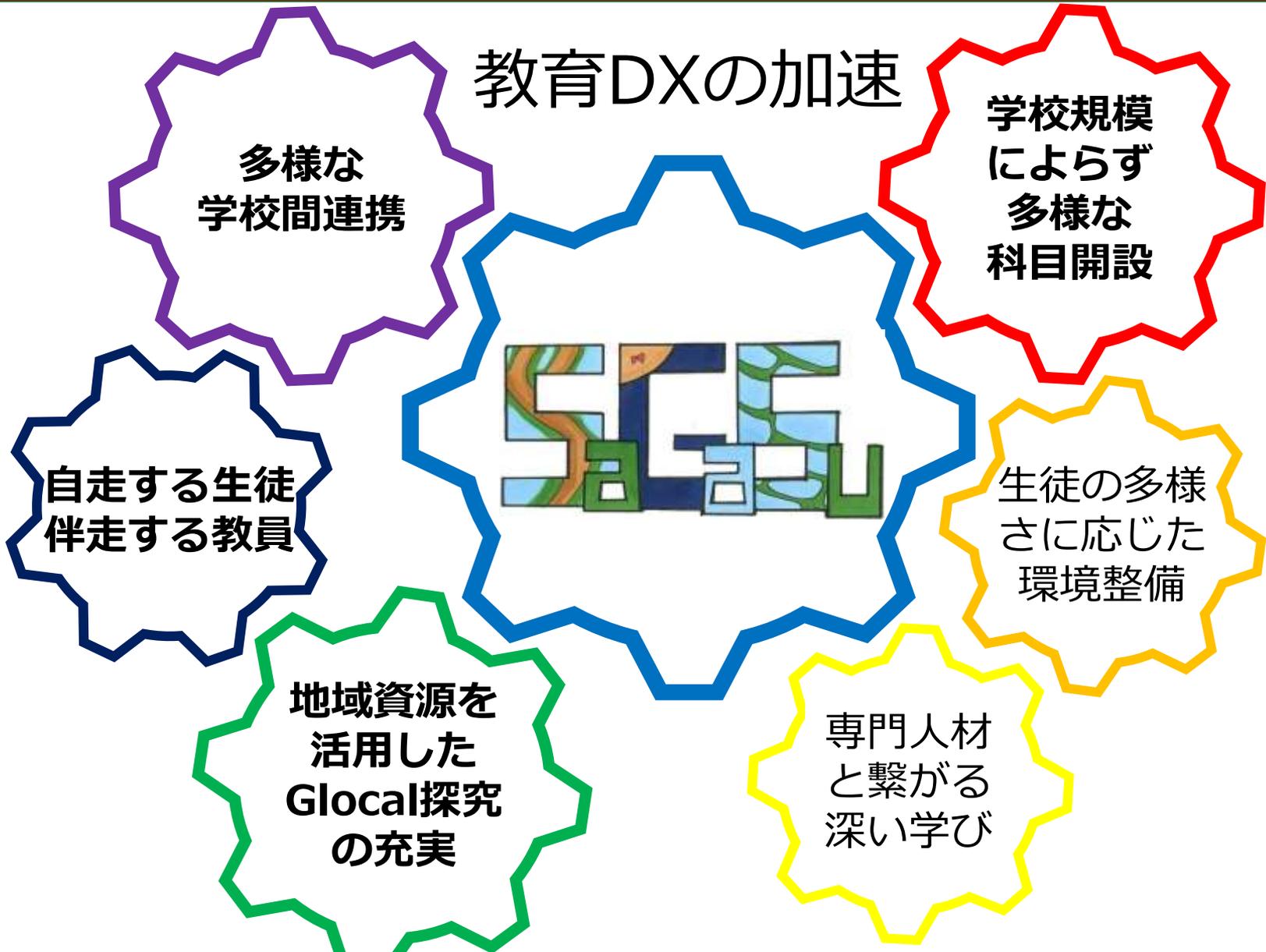


- 大都市圏の高校や、広域通信制高校にはない
地方公立高校の強みは「**地域**」に根ざせること
- 魅力的な地域・学校は、**魅力的な人々を惹きつける**

生徒を主語にした学校の魅力化・特色化の推進

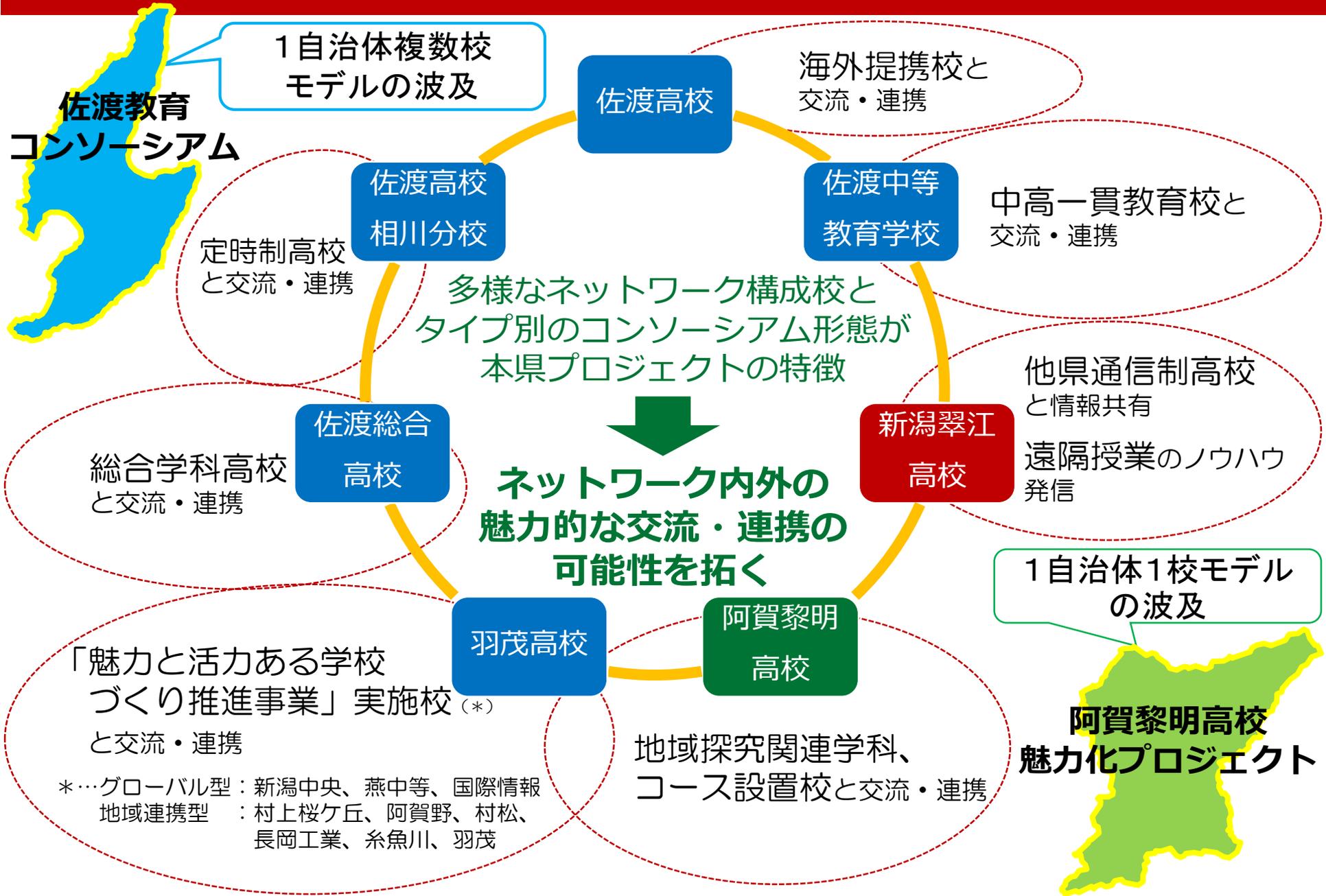
誰もが等しく豊かな教育を受けられる環境の整備

教育DXの加速



新潟県の強みを活かした教育(自然・文化・産業・交通網など)

6 SaGaSuプロジェクト × 本県高校教育の可能性 II



7 遠隔教育の推進について 今後の展開（本県の動向）

R6

R7

R8

POINT！ 学校間連携で遠隔授業体制を拡大

- 新潟翠江高校（通信制課程）が配信の中心拠点（一部科目はエリア内の学校間でも相対でも実施）
- ※遠隔授業配信センターの具体的なあり方を検討

POINT！ 遠隔授業配信センターの開設

- 全日制・定時制の小規模高等学校等に対して、各科目の配信専任教員が授業実施・単位認定
- 大学・IT企業等と連携した講座等の配信

佐渡エリアでは「地学基礎」を共通科目とし、佐渡高校から各校に配信

新潟市内の高等学校が遠隔授業の配信拠点（～R7）

エリア内で一部科目を相対で配信

